

MMC NEWS

MEIDAI MASS-COMMUNICATION CLUB

発行 明治大学マスコミクラブ
 〒101-8301
 東京都千代田区神田駿河台1-1
 明治大学広報課内 MMC事務局
 電話 03-3296-4082
 FAX 03-3296-4087
 e-mail: mmc@meiji-mmc.sakura.ne.jp
 URL: www.meiji-mmc.com
 発行人 本村 隆
 編集 馬淵 豊・梶野 雅秀

OBをどうしての活動をより活発に



MMC会長 本村 隆

MMC会員の皆様、明けましておめでとうございます。

昨年末は3年有連続した民主党政権がその座を明け渡し、自民・公明を中心とした政権に交代しました。そもそも政権交代しやすいために作られた小選挙区制は死票も多く、民意を本場に反映しているとは言い難い制度です。20年ほど前、政治改革の議論の中ではあまり真剣に議論されなかつた制度の欠陥がこうした形の政権交代の応酬という結果を招き、世に詫めたる思いが胸の奥に残っており、いづれにしても、新政権が失脚や竹島といった領土をめぐる外交問題やデフレ脱却や景気回復といった経済問題をどうのよう解決していくのか、マスコミに身を置く立場として注視してまいりたいと思います。

さて、MMCも昨年には作家の猪瀬直樹氏をお招きしての特別講演を皮切りに2回のフォーラムを実施しました。そ

れに加え、新しい試みとして東京都心にあつて、なかなか訪れることのないスポットを出版編集者・建築評論家でOBの小林二郎氏とともに歩き、解説していただく「第二回まち歩き」を実施しました。私も参加いたしました。明治大学発祥の地の碑がある有楽町の公園から東京駅を経て丸の内、大手町と明治から昭和にかけて歴史の舞台となった貴重な建築物を訪れることができ、非常に興味深い経験をさせていただきました。今後自分一人ではなかなかできない「まち歩き」を続けていきたいと考えています。興味のある



広報活動で強い連携を 明治大学経営企画部 部長 大野友和

方是非ご参加ください。

MMCは今年の総会が役員改選時期であります。これまでの体制を見直し、OB会としての活動をより活発にできる組織に変えようと思っております。規約も実態に合わせる形に改正しようと思っております。そして、何といたっても明治大学を卒業しマスコミ業界に入った若い人たちの参加を促していきたいと考えています。そのためにもマスコミ志望の学生に対し実施しているマスコミ講座で背中を押してあげて、晴れて狭き門を突破した若者を是非MMCで迎えたいと考えています。

MMC。この存在は大学広報に身を置く私たちにとって極めて頼りになる存在である。明治大学マスコミクラブ。つ

私どもは、明治大学経営企画部広報課で大学広報の業務をしているが、MMCの方々には、大学広報業務遂行にあたって、様々な相談のついでに

だきお世話になってる。また、本学の広報戦略本部の下にある各種会議に委員として参加いただいている。そこでは、豊かな現場感覚からの確かなアドバイスをいただくことが多い。会議に参加いただいている委員からは深い経験に基づいた建設的な意見をいただいている。たいへん頼もしい方々である。

明治大学はこのところ法人、教学、学生諸君、校友の方々がぞつて元気があり、大変活況を呈している。各キャンパスも学生諸君の生き生きとした諸活動が目立ち、その意味では広報のコンテンツが豊かであり広報課員はうれしい悲鳴である。こんな時こそ絶好の広報課員の腕の見せ所である、と皆張り切っているところである。近年私たちは大学当局の理解を得て予算を得ながら業務を行っているが、様々な広報改革も同時に行ってきた。広報課担当者も数人の中途採用を行い、専門的人材を迎えて充実した体制で業務を行っている。お陰で、このところ本学の各種広報は学内外から好評を得ているところである。

たとえば、「明治大学広報」の横組み化や、「meiji.ac」による音声の提供、メディアガイドの作成、そして積極的なプレスリリースなど、本学広報の顔が明確になっている。このところプレスリリースにより本学のニュースがマスコミに取り上げ

られる件数も格段に上昇している。これらの努力によって本学の露出度が徐々に高まり、学生・父母、校友等ステークホルダーに情報発信することができている。

ところで、私たちが日常的に大学関係の広報を行っているなかで感じていることを少し述べてみたい。私は日常的に大学関係ニュースを注意深く見ているが、時々がっかりすることがある。それは、新聞・テレビ等が、大きく光を当てて欲しい本学の話題が実に冷淡に扱われ、それほどでもないと思う某大手大学の話題が過度に取り上げられることがある。またその逆に、たいしたことではないと思われる本学の事件が大きく取り上げられてしまうことがある反面、大事件と違う他大学の事件が何とも触れられなかったりする。このような時、私たちの実力のなさがこの結果を招いているのだと反省するのだが、MMCの諸先輩の力で、何とかしていただけないものかとひそかに思うこともある。

いづれにしても、MMCに集う諸氏は、マスコミの世界で活躍している人々である。私たちが大学広報関係者は大いに期待申し上げている。今後、より強い連携を図り、様々な教えを乞い大学広報のさらなる向上に繋げていきたいと考えている。

寄稿—MMC30周年を振り返る—

偏差値向上と大物の育成を

渡部行(昭和二十八年政経卒、元産経新聞編集委員)



理事長を始め教職員のご努力の結果で、校友としても誇りに思う。ちなみに長堀氏は福島県立相馬高校の三年後輩という間柄である。

だが、親しくして頂いた飛鳥田一雄先輩の話されたことが忘れられない。先輩はご尊父も法学部卒でたしか名古屋高裁の長官、ご自身は弁護士、そして娘さん、つまり三代にわたり明治の法学部を卒業された。成績が悪くて明治に来たわけではない。

先輩は「私の頃の法学部にはアルファベットも満足に知らない学生が何人もいた。どうしてこいつらが入学できたのか不思議だったが、その包容力の広い明治が好きだったなあ。大物も多かった」といわれた。

昨今ではとても考えられないし、許されないだろう。しかし、最近とても残念なのは政界はもちろん官界、財界でも卒業生の活躍がとて

も少ない。上場会社の新社長就任に明大卒はなかなか見当たらない。かつては政界に三木、村山富市元首相、飛鳥田そして大野伴陸などの大物が多くおられて明治閣

「MMCニュース」23号の系譜をみて、一九八三年十二月三十日に開かれた「駿台ジャーナリストクラブ設立総会」のことを回想した。ホテルの会場には全国からマスコミ関係の校友二百人も参会、小島憲

総長、三木武夫元首相、飛鳥田一雄元社会党委員長らが来賓として出席され華やかなものだった。会場で三木先輩とも親しく懇談して頂いた。

それから早くも三十年を経過。MMCの会合では昭和二十八年(一九五三)政経卒の私が最年長になってしまった。同級生の60%ほどは天国に召されたが、生き残り組が集ったとき必ず意見が一致するのは「今の明治にはとても入れなかった」である。

わが母校は三年連続で入学志願者数日本一を誇り、偏差値も上がり、難関校になった。これは、長堀守弘前理

を形成していた。

また、明大の教授陣のなかに新聞、テレビ、出版などマスコミに登場、活躍しているものも少ない。たまに出てくるのは他の大学を定年退職して明治の教授になった人などだ。

偏差値が高く、学業成績がいいのはもちろん歓迎だが、全体として個性に欠け、学生、卒業生がつまり小物、小粒になっているような気がしてならない。卒業生の中で結束がもつとも強いのは慶応である。明治の卒業生も連携してお互いに力を発揮すべきだと思う。そしてこの重要な役割を果たすのが私達MMCであることを期待している。

2012年度マスコミ講座中間報告

座二期生の土屋朋之君でした。まるで若手社員の代表のごとく頑張っている姿が印象的な広告でした。講座出身者が力強く社会で活躍している姿を確認しました。



座二期生の土屋朋之君でした。まるで若手社員の代表のごとく頑張っている姿が印象的な広告でした。講座出身者が力強く社会で活躍している姿を確認しました。

■一般コース
一月九日付日経と産経朝刊を見てお気づきになった方いらっしゃるいませんか?
吉本興業さんの全面広告での企業イメージ広告なんです

今年度の目標は基礎力の積み上げです。作文、エントリシート、筆記試験、面接の分野において、本格的マスコミ試験スタートの三月を目指して逆算した形で力を付けてもらっています。

今年度のアナウンス講座は、就職試験日の見直しに伴い例年より四カ月遅い十月三日からスタートし、毎週水曜夜七時から二時間行なわれま

アナウンスコース
今年度のアナウンス講座は、就職試験日の見直しに伴い例年より四カ月遅い十月三日からスタートし、毎週水曜夜七時から二時間行なわれま



トを想定したVTR実習などをより充実させ、実践を意識した内容としました。
講師には、現役アナウンサーを含む三人が担当し、密度の濃いより具体的な試験対策を盛り込むことができ、十二月三日までの全十二回を無事終了することができました。受講生は選抜試験に合格した六名で初めてアナウンスの基礎を学ぶ学生も多く、毎回真摯な姿勢で臨み、回を追うごとに技術的な向上がみられました。

2012/10/3 14:53

リレーインタビュー 北から南から

趣味は鉄道

稲見 眞一

1972年・法学部卒
中京テレビ放送



ドクターイエロー(新幹線電気軌道総合試験車)

「趣味」と「仕事」の微妙な関係の話しを少々。

私が中京テレビに就職したのは、学生時代にテレビ局でアルバイトをし「面白い」と思ったのがきっかけで、決して映像制作の「趣味」があったからではありません。

入社後は、報道・制作部門で26年を過ごし、その後は、いわゆる管理部門に籍を置いていきます。そんな私の趣味は鉄道で、その中でも「乗り鉄」という分野です。小学生の頃から興味を持ち始め、中学校に入って目覚め、大学生の頃は鉄道の旅を楽しみ、就職を控えた大学4年の冬から全国の鉄道を「全て乗る」

という目標を立て、入社3年目の25歳の時に、当時、日本にあった鉄道(国鉄・私鉄・地下鉄・路面電車)に全て乗り終えました。その後マイル保持に努めると共に、ケーブルカーの全線も乗り終え現在に至っています。

マスコミという職業柄、時には「鉄道」を取材することもあり、自分で言うのも何ですがそんな時は嬉々として仕事に取り組みました。まあ趣味と仕事の関係はそんなところだったので……。4年前の平成21年の春、風向きがガラッと変わりました。

その頃、鉄道が好きでプロデューサーが制作部におり、彼の企画で「芸能界鉄道研究会 鉄研」という中京ローカルの鉄道バラエティ番組が誕生しました。当初放送した単発番組が好評で、その後2か月限定でレギュラー番組となり、何とDVD化もされました。その番組で不肖・私が鉄道監修を担当することになり、管理部門のスタッフであるという立場を忘れ(？)、ロケに立ちあつたりしていました。

そしてその時は、それで終わりだと思っていた「趣味」と「仕事」



1991.10.12:旧ソ連ホワイトハウス前にて

の関係だったのですが、実はその時点がスタートだったので。まず番組が終了した翌月から番組プロダクション「稲見駅長の鉄道だよ人生は！」を始めることになり、ほぼ全面的に私の個人的な「鉄」活動報告を、今も変わらず連載中です。

<http://www.2ctv.co.jp/tekken2/>

趣味の話しを公式サイトで書かせてくれる会社はそうは無いです。それがだけに留まっています。

今では年に1回ペースで小規模ながら「鉄道イベント」のプロデュース・演出や、昨年末に2回目の放送となった番組「ことも鉄道博士選手権」の問題の監修など順調(?)に仕事をさせていただいています。現在、私は59歳です。

管理部門に在籍しつつ、本業以外の、しかも趣味を活かして(と良い方に解釈?)エントロピーに名前を連ねると

我がメイジ魂

宮脇 渉

1980年・政経学部卒
中日新聞社



は時代が変わったということでしょうか。

どの放送局にも様々な「趣味」を持つ人がいると思いますが、スタッフの有効活用としてはいい方法かもしれないです。何せ、日常業務+αにも関わらず残業・休日出勤も厭われないですから……。

わが中日スポーツの社内ではちよつとした「明早戦」が繰り広げられている。マスコミ、特に新聞業界は早大出身者が多いのは今に始まったことではないが、わが社内では明大出身者もかなり頑張っているのだ。昨年1人だけだったが、一昨年は新入社員が3人も。

わが中日スポーツ報道部もデスクが2人、ドラゴンズ担当記者も2人。しかし、どうしてもワセダ勢力に圧倒されてしまう。2011年6月に就任した社長が早大出身。するとわが局内を「一気にワセダ色に染めてしまう。早大の報道部長

をドラゴンズファンクラブ事務局長に、後任はもちろん早大出の部長。早大出のデスクをドラゴンズ球団の広報部長に抜てきして、明大出の広報部長を追い出してしまう。東京で発行している「東京中日スポーツ」の報道部長もワセダ。報道デスクもドラゴンズキップも早大。要所をワセダで固めるシフトにはあきれられるばかりだった。

しかし、実際、仕事の方はどうかというところ、メイジの方が優秀。私ももう1人のデスクはイチロー(ヤンキース)と実根の仲で、ドラゴンのサブキャップは二ノ宮感覚に鋭く、昨年からはドラゴンの若手記者もメイジならではの突撃取材で読ませる記事を多く書く。こちらにも2人は大変重宝している。

ワセダカラーで固めた首脳陣だが、メイジの存在の大きさを分かってきたのだらう。決断力がなく、ぼやいてばかりの報道部長への「こ入れ」として、昨年8月には局長も早大出にしたが、ワンマンぶりを発揮しすぎて、いまや局内は大混乱の状態となった。

次なる手段として、私に大阪支社への転勤を命じたのであった。12月2日のラケビー・明早戦、大学選手権を含めた100回目の明早戦で、明大が14年ぶりの対抗戦優勝を決めた翌日に内示。いくら偶然とはいえ、びっくりだった。嫌がらせとしか思えない。人生55年間で二度も生活したことも



ない大阪に、単身赴任で、しかも東京五輪の年に建てられた会社の寮に入れ、という。土地勘もなく、不安いっぱいな所に放り出されるとは？

デスク業務ではかなりメイジひいきに紙面化したことは認める。昨年12月半ばに明大ラケビーが相撲部に出掛けに訪れたニュースを他紙に負けまいとデカデカと掲載したりもした。それ以前にも私がメイジひいきであることはワセダ首脳陣にはわざわざわしいものだと思っていたに違いない。さらにはしゃくなのは、その後、大学選手権で正月を待つことなく敗退したこと。

名古屋に9年間、その前は東京で「東京中日スポーツ」の報道デスクとして5年間、仕事をしてきたが、今年からは新聞も出ていない大阪で新聞製作のサポートをするだけに、私は決して負けません。メイジ魂を発揮して「明早戦」に勝つぞ！

会員トピックス

「現代の名工」受賞

佐谷静玲 昭和58年政治経済学部卒



私は四十数年間に亘りフラワー装飾師として活動を続ける中で独自のスタイルを生み出してきましたが、その創造性が認められ、この度、厚生労働省が選定する卓越した技能者(通称「現代の名工」として表彰を受けました。一昨年は、東京都優秀技能者(東京マイスター)に選ばれたばかりですので、立て続けにこのような名譽ある賞をいただくことは身に余る光栄であり、これまでお世話になった先生や諸先輩方には感謝し尽くせない思いがあります。

ここの数年の間、多くのコンテスト等でまんぞく充実した成果を残すことができたのも、丁寧にご指導をしてくださった先生方と叱咤激励し合える良き同僚がいたからです。現在でも年に数回、ドイツの著名なフラワーアーティストと交流をさせていただいておりますが、この春には、ロシアのエルミタージュ美術館の学芸員と対談する機会も得たりと、活動の場の広がりを感じております。私ほど、良い師匠や環境に恵まれたものはいないと、あらためて身の幸福を感じております。

明治大学OBの皆さまとの多彩な交流も貴重な財産です。マスコミクラブとのご縁は、先輩の木村武さんに誘われた3年前の新年会が最初でしたが、その後、私と同じ道を歩み始めたモデル兼フロアリストの娘共々、ご指導をいただくこともございます。

この新しい繋がりを大切にしながら、次の、今まで誰も見たことのない感動を与えられる作品造りを目指し、後継の道しるべとなるべく励んでまいります。それが皆さんへの最大のご恩返しになることを信じて。

第二十六回武内裕杯MMCゴルフ



自分の優勝記事を自ら書くこれも役目柄、真実を報道するマスコミ人の使命と、お許

し願います。 楡氏が三連覇を阻止。ゴルフ場に向かう車の外気はマイナス4度、この冬二番めに霜が残っていたものの徐々に気温が上昇し、快晴無風の絶好のゴルフ日和となった。 今回の会場は千葉市にある平川カントリークラブ。平成二十四年十二月十四日。前週の九日には「日立3ツアーズ選手権」が開催され、テレビ朝日で中継され、中島常幸が最終ホールでチップインバイディーを決め、シニアチームに優勝をもたらしたことは記憶に新し



秋のフォーラム(10月23日) 講師はフェイスブック書籍でお馴染みの松宮義仁氏。



2012 サマービァパーティー(7月18日) 参加者62名、銀座スターホールにて開催。

い。 競技は楡氏がホームコースの利を生かして、二年ぶりの優勝を果たし、武内裕杯と武内氏制作の大皿を手にした。 新メンバー増える このところ新しいメンバーの参加が目立っている。宇都氏、奥氏また今回から影山氏、山内氏それに十数年ぶりに吉田氏が復活参加した。 観戦「ハレ」日程決定 相模カンツリー倶楽部に於いて恒例の観戦コンペを三月二十九日に開催いたしますのでふるってご参加ください。ゴルフ会会員登録は楡まで。 幹事・楡郁太郎(64年・商) (申込連絡先090-2247-1121)

MMCC野球部メンバー募集 草野球チーム「MMCC野球部」を創設につき、皆様の参加を募らせて頂きます。年齢及び野球経験の有無は不問。ユニホームは明大野球部と同仕様です。興味のある方は、小野まで、ご連絡ください。 小野友己(10年・文) メール: ono@keizopro.com 連絡先: 080-5080-0609 編集後記 ▼特別寄稿フロントの大野部長感謝記事、栄光記事に冷笑、他大学の話題が過度、マスコミの本学の話にバランスを、MMCも奮起して欲しいとの提示。広報連携実感(馬淵豊)

Table with columns: 順位, 氏名, アウト, イン, グロス, ハンデ, ネット. Lists golf scores for 15 players.